

浪速区運営方針・予算について

～浪速区の教育施策における主な取り組み～

- ・令和3年度の振り返り
- ・令和4年度の取り組み

自己評価（総括）

◆ 区の目標

「区民との協働によるまちづくりを推進し、「子どもたちが生き活きと学び、健やかに育つとともに、区民が安全で安心して暮らせるまち」の実現。

◆ 戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

【経営課題4 子どもたちが健やかに育ち、学べるまちづくり】

学習習慣の定着や学力の向上に向けて成果が現われてきていると考えられる。今後も、民間事業者のノウハウや人材を活用するなどし、学校と連携しながら、支援の必要な児童生徒の状況や学校現場のニーズを踏まえ取り組みを進めていく。

経営課題4 子どもたちが健やかに育ち、学べるまちづくり

○4-1 学習習慣の定着

【令和3年度の取り組み】

- 浪速まなび支援事業 R3 予算：15,025千円
 - ・学習ルームの開設
(全6小学校、計7680日開設、参加者数のべ13,735名)
- 学習意欲向上推進事業 R3 予算：1,436千円
 - ・漢字検定受検支援
(全6小学校、5校1学年受検・2校6学年受検)

【指標の達成状況】

- 浪速まなび支援事業
 - ・小学校5年生の授業時間以外の勉強時間について、「まったくしない」「30分より少ない」児童の割合 指標：13%以下⇒結果28.3% 未達成
- 学習意欲向上推進事業・・・達成せず
 - ・各学校で設定する漢検の受検目標を達成できた学校の割合 指標：83.3%以上⇒結果33.3% 未達成

【令和3年度の振り返り】

- 浪速まなび支援事業
 - ・令和2年度より引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響による学校休業や、感染症対策での室内収容人数の制限により、参加者数が減少（R1年度19,791名→R2年度14,829名）し、指標については、達成できなかったが学習習慣の定着に向けては、一定の成果が現われてきている。
- 学習意欲向上推進事業
 - ・指標の達成には至らなかったが、設定した受験目標にわずかに届かなかった学校も2校あり、各学校の取組は着実に進んでいる。

【令和4年度の取り組み】

- 浪速まなび支援事業 R4 予算：9,939千円
 - ・学習習慣の定着をはかるために、小学校の放課後に、図書室等で児童が宿題や自主学習ができるよう、学校の状況に応じて指導員を配置する。（全6小学校、指導員各2～3名、各平均100日程度）
- 学習意欲向上推進事業 R4 予算：680千円
 - ・小学校と連携し、児童が漢字検定を受検する機会を提供することで、学習意欲の向上や学習習慣の定着に役立てる。児童の語彙力や言葉を理解する力の育成にかかる学校の取り組み支援の一助とする。（小学校6校）×年1回×1学年

【令和4年度の指標】

- 浪速まなび支援事業 市平均以下
- 学習意欲向上推進事業 83.3%以上

○ 4 - 2 学力向上の支援

【令和3年度の取り組み】

- 「なにわ学び教室」 R3 予算：1,364千円
 - ・ 学習会の開催（全3中学校、週2回、のべ参加者数3,876名）
 - ・ 特別教室の開催（長期休業期間中14日間、のべ参加者数301名）
※新型コロナウイルス感染症対策としてオンライン授業も実施
- 日本語の指導が必要な児童生徒の支援事業 R2 予算：2,010千円
サポーターの配置（小中学校7校8名、計401日、1,651時間）

【指標の達成状況】

○ 学習参加者に対して行う「学習理解度を測るテスト」の結果が向上した生徒の割合

指標：90.0%以上 ⇒ 結果：91.3% 達成

○ 支援の必要な児童生徒について、日本語サポーターの配置により、日本語の学習言語能力が学齢相応へ到達したと感じる学校の割合

指標：60.0%以上 ⇒ 結果：100% 達成

【令和3年度の振り返り】

- 「なにわ学び教室」
 - ・ 緊急事態宣言中（4・5月）のICT等を活用した教育活動の実施により、5月の通常教室開始時期は、オンライン授業を原則とし、家庭にオンライン学習の環境がない生徒には対面で授業を行った。
- 日本語の指導が必要な児童生徒の支援事業
 - ・ 学校休業により、事業開始時期が当初予定の4月から6月にずれ込んだ。区内における日本語指導を必要とする児童生徒は、年々増加傾向にあり、年度途中での配置希望への対応など課題が顕在化した。学校へのアンケートから同事業が学校現場の負担軽減につながっていることが明らかになった。



【令和4年度の取り組み】

- 「なにわ学び教室」 R4 予算：1,366千円
 - ・ 基礎学力の向上等を目的とした学習機会を提供するために、中学生を対象に、放課後等に民間事業者による少人数で個別指導を行う学習会を開催する。大阪市塾代助成事業を活用した参加を可能とすることで、参加者の経済的負担を軽減し、家庭の状況に関わらず、幅広く参加することができる機会とする。
- 日本語の指導が必要な児童生徒の支援事業 R3 予算：4,010千円
 - ・ 日本語の指導が必要な児童生徒の学校生活や学習の支援のために、区内小中学校からの要請に応じて、教職員と連携しながら授業中や放課後等に、ボランティア人材（サポーター）を派遣する。

【令和3年度の指標】

- 「なにわ学び教室」 90.0%以上
- 日本語の指導が必要な児童生徒の支援事業 60%以上

令和3年度 教育関係事業プロセス指標取り組み結果一覧

資料1

区担当教育次長執行枠					
事業名	事業概要	R3年度予算 (単位:千円)	指標	結果	達成状況
浪速区中学生の学力向上支援事業 (なにわ学び教室) ※中学生対象	学習習慣の定着と基礎学力の向上を目的とした学習機会を提供するために、区内中学生を対象に、放課後等に民間事業者による少人数で個別指導を行う学習会を開催する。大阪市塾代助成事業を活用した参加を可能とすることで、参加者の経済的負担を軽減し、家庭の状況に関わらず、幅広く参加することができる仕組みとする。 【実施状況】 R3年度2月末通常教室参加者数:3,876名 R2年度2月末通常教室参加者数:3,200名	1,364	学習会参加者に対して行う「学習理解度を測るテスト」の結果が向上した生徒の割合:90%以上 【撤退・再構築基準】 上記指標が72%未満の場合は事業を再構築する。	91.3% (R2:88.4%)	達成
日本語の指導が必要な児童生徒の支援事業 (日本語サポーター) ※小・中学生対象	区内市立小・中学校に在籍する、日本語の指導が必要な児童生徒の学校生活や学習の支援のために、学校からの要請に応じて、教員と連携しながら授業中や放課後等に、人材(サポーター)が活動できる仕組みの構築と運用を行い、学習や多言語でのコミュニケーションを支援する。 【実施状況】 R3年度2月末配置時間:小学校 1,125時間 中学校 503時間 R2年度2月末配置時間:小学校 1,046時間 中学校 305時間	2,010	日本語サポーターが活動している学校に対するアンケート調査で、支援の必要な児童生徒について、日本語サポーターの配置により、日本語の学習言語能力が学齢相応へ到達したと感じる学校の割合:60%以上 【撤退・再構築基準】 上記指標が48%未満の場合は事業を再構築する。	100% (R2:57.1%)	達成
浪速区学習意欲向上推進事業 (漢検受検支援) ※小学生対象	小学校と連携し、児童が漢字検定を受検する機会を提供することで、学習意欲の向上や学習習慣の定着に役立てる。また、児童の語彙力や言葉を理解する力の育成にかかる学校の取り組み支援の一助とする。 【実施状況】 R3年度:全学年受検 3校(モデル校) 1学年受検 3校 R2年度:全学年受検 1校(モデル校) 1学年受検 5校	1,436	各学校で設定する漢検の受検目標を達成できた学校の割合:83.3%以上 【撤退・再構築基準】 上記指標が50%以下の場合は事業を再構築する。	33.3% (R2:66.7%)	未達成

区まち予算 貧困重点予算					
事業名	事業概要	R3年度予算 (単位:千円)	指標	結果	達成状況
浪速まなび支援事業 (学習ルーム) ※小学生対象	学習習慣の定着をはかるために、小学校の放課後に、図書室等で児童が宿題等の自主学習ができるよう、学校の状況に応じて指導員を配置する。 【実施状況】 R3年度2月末参加者数:13,081名 R2年度2月末参加者数:14,226名	15,025	区内小学校5年生アンケート調査で、授業以外の勉強時間について、「まったくしない」「30分より少ない」と回答する児童(小学校5年生)の割合:13%以下 【撤退・再構築基準】 上記指標が14.2%以上の場合は事業を再構築する。	28.3% (R2:31.0%)	未達成